

◆2023年 中学入試算数 講評【聖光】

例年通り、小学生である受験生にとって無理のない範囲で、中学受験算数で学んできた知識をもとに試行錯誤したり、抽象化したりする力が求められています。

また「考えられるものをすべて答えなさい」という出題が近年多くなりましたが、今年もそのような出題が目立ちました。そういった出題形式を含め、同校は、限られた時間の中で受験生が取り組みやすく、選抜試験としても機能しやすい点にとても工夫しているように見受けられます。例えば、場合の数の問題では、状況を読み取るのに複雑ではなく、場合の数の本質を身につけてきたかが絶妙に問われるような問題を毎年出している点にあることなどが挙げられます。(今年の大問3)

小問集合(3)

サッカースタジアムの手荷物検査の窓口の設定ですが、ここ数年で増えた検査を意識して作成されたのかもしれませんが。

3時14分になって窓口にはじめて人がいなくなると表現されていますが、これを正確に捉えられるか、が試されています。

面白い問題ですね。

大問5 速さ 時計

時針、分針、秒針の3つを考える問題で、非常に面白い問題でした。

通常の時計では、これらの3つが重なるタイミングは、12時ぴったりしかありませんが、時針と分針が重なるときに秒針も重なるように秒針の速度を変える。そんな状況を一緒に考えてみませんか、という問題です。こういった出題には、激しく筆者は共感しますし、算数、数学、もつとえば学問の面白さであると思います。

そんな状況考えても意味ないじゃん、と思われるかもしれませんが、意味があるかどうかはわからないけど、面白いことが起こる気がして考えてみると、そこから思わぬ発見が生まれて、他のことにも応用できるような定理や概念に繋がっていく。

そして、いきなり上記を考えるのは限られた時間では大変ですので、誘導も見事だと思います。

個人的に今年を代表する問題だと思います。